

第3回熊本城復旧基本計画検証委員会 議事録

日時:令和5年(2023年) 3月23日(木) 10:00~12:00

会場:桜の馬場城彩苑 多目的交流施設

出席者:蓑茂委員長、山尾副委員長、伊東委員、北野委員、坂本委員、原委員、三浦委員

熊本県文化課、熊本県都市計画課、熊本市文化財課、熊本市公園課

(リモート参加)国土交通省都市安全課、国土交通省公園緑地・景観課、

国土交通省九州地方整備局、文化庁

事務局:文化市民局:横田局長

熊本城総合事務所:田端所長、濱田副所長、岩佐副所長

下村主幹、渡辺技術主幹、田代主査、馬渡主査

熊本城調査研究センター:網田所長、嘉村文化財保護主任主事

他

次第1	開会
次第2	文化市民局長 挨拶
次第3	議事
議事 1	熊本城復旧基本計画改定案について
蓑茂委員長	<p>皆さん、あらためましておはようございます。リモートで参加の皆さんもよろしくお願いいたします。先ほど、横田局長からのご挨拶にもありましたとおり、今日が3回目の委員会でございます。昨年7月、12月に1回目、2回目と開催いたしました。復旧基本計画の策定から約5年が過ぎまして、さまざまな課題があること、それから状況の変化によって、計画期間を変更することなどをご審議いただきました。</p> <p>本日は、取りまとめていただいた改定案の確認というのが一番にあります。皆様のご協力によりまして、無事にこの改定案を市にお届けしたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。簡単ではございますが、ご挨拶に代えたいと思います。</p>
蓑茂委員長	<p>それでは、よろしいでしょうか。次第によりまして、本日の議事は1つだけのようです。「熊本城復旧基本計画改定案について」、これまでの皆様からいただいた意見の確認も含めて、一括して説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	(資料1、資料2、資料3説明)

蓑茂委員長	はい。ありがとうございました。分厚い基本計画改定案だが、変更点について概要版でご説明いただいた。細かいところは本編を見ると分かるかと思うが、ご意見等を賜りたいと思う。よろしく願いいたします。
坂本委員	非常に分かりやすい概要版だと思う。事前に説明をいただいたからかもしれないが、ずっと頭に入ってくる。しかし、4ページの部分で、今回、市民の興味としては、計画期間が20年から35年になったというインパクトの強い話題があると思う。そのことに関して、いま口頭で説明があったように、本文の方には説明があるので、概要版にも同じように入れてはどうか。一番興味があるところだと思う。こういう理由で延びます、ということ、ただいま説明いただいたかたちでいいので、載せられたほうがいいのではないかと思った。
蓑茂委員長	はい。事務局からはいかがですか。
事務局	ありがとうございます。たしかにご指摘の部分は非常に注目されたところ。分かりやすいように文章を入れたいと思う。
蓑茂委員長	標準工程の話と、事業の平準化の話ですね。それが明確になればいいんじゃないでしょうか。
伊東委員	全体として非常に分かりやすく拝見させていただいた。ただ、書きぶりで、たとえば5ページの部分。「文化財的価値の保全」ということが書いてある。熊本城は、既に定まった価値があるからこそ重要文化財に指定されたりしているわけだが、一方で、復旧工事を進める中で、新しく見出されてくる価値というものもあるように思う。7ページの「100年先を見据えた復元への礎づくり」の「(1)熊本城調査研究の更なる推進」に、「調査の成果を復旧工事に反映する」と書いてある。復旧工事に反映するのはもちろんだが、復旧工事による調査から見出される新しい価値というものがあるような気がする。だから、復旧工事イコール調査研究となる部分が非常に大きく、調査の進展の大きなチャンスであって、そこで新しい価値が見出される可能性が大いにあるし、既に見出されていると思うので、その書きぶりが気になった。計画書としては何も問題ないと思うが、そのような意識で取り組んでいただけたらと思う。
蓑茂委員長	これまでに明らかにされている価値があって、それから新しい価値の発見がここで起きているんだと、そういうことでしょうね。 それから文化財的な真正性、英語では Authenticity (オーセンティシティ) とか言うが、そういったものを匂わせてもいいのかもしれない。よろしいでしょうか。

山尾副委員長	<p>今回気が付いたことだが、第2章の「熊本城の被害状況」は、最初の復旧基本計画では被害状況しかなかったが、今回は「復旧状況」というのが出てきたということを示すためにも、「被害と復旧の状況」ということにしてはいかがか。今後はより復旧の部分が増えていくと思う。復旧は非常に重要なことなので、やはりこうやって復旧しているということを見せるためにも、そういうタイトルで説明された方がいいのではないかなと思う。</p> <p>もう一つ、細かいことだが、概要版の5ページや7ページ、説明文が写真の上に付いているものと下に付いているものがあるので、何らかの理由があってそうされているのかもしれないが、統一していただければと思う。ご検討ください。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。まず、最初のところ、たしかに、今後5年、10年と経過していくと、復旧状況の部分が大きくなっていく。そういったところを明確にする意味でも、調整させていただきたい。</p> <p>そして、写真の方も、おっしゃる通りであるので、統一させていただく。</p>
蓑茂委員長	<p>第2章のタイトルは「被害状況と復旧状況」とするのかな。それがいいかもしれない。それから、写真の説明の位置は下で統一する。よろしくお願いします。</p>
三浦委員	<p>概要版がすごく分かりやすく、頭に入った。一つだけお尋ねしたい。7ページの「復旧過程の文化・観光資源等としての活用」の部分に、「復旧を学習の機会と捉えた教育プログラムなどへの支援に取り組みます」とあるが、具体的にどのような取り組みを想定しているのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。具体化していくのは今後になるが、たとえば副教材のようなものを使って学校の中で活用していただけるように、情報を整理・発信していくことを考えている。もう一つは出前講座のようなかたちで、我々が学校に出向いていくことも想定している。そして逆に熊本城にも来ていただいて見ていただくことも重要。そうしたことを、対象の年齢、世代に合わせて考えていこうとしているところ。</p>
蓑茂委員長	<p>他の事例でいくと、たとえば教育委員会と政策間連携をやって、天守閣内の展示物を分かりやすく副読本にするとか、そういったことが必要だと思う。今日の段階ということではないが、これから検討してほしい。</p>
坂本委員	<p>「100年先を見据えた復元への礎づくり」の部分で、このように取り組みますと書いてあるが、だんだん主語が分からなくなってくる。第5</p>

	<p>章の「計画の実現に向けて」では人材育成の課題が挙げられている。当初の計画においても、人材育成は課題となっていて、この委員会の場でも、人材育成については何度か意見が出ている。この5年間、どういった取り組みをして、そこからどのような見直しをして、計画の実現に向けた具体的な取り組みとして何を書いたのか、そういったところをご説明いただけるか。</p>
事務局	<p>復旧基本計画改定案本編の129ページをご覧ください。「(2)将来にわたる継続的な復旧を支える人づくり」というところで、人材育成の重要性を謳っている。</p> <p>これまで5年間どういことをやってきたかというところでは、まずスポットライトが当たっているのが石工さん。当初から、そうした石工の育成が重要だということで、しかも地元・熊本における人材育成について、これまで一度研修会を企画したものの新型コロナの影響で実施できず、今年度やっと実施したところ。そして石垣の復旧工事を発注する際に、その仕様書に、地元の技術者が参加を希望する場合は積極的に活用・登用してくださいということを入れて発注して、数名の石工の方が現場に入っている。そうしたことをこれまで取り組んできた。</p> <p>当然、今後はさらに力を入れてやっていかなくてはいけない。それを踏まえて、今回の改定では本編の131ページに「令和5年度(2023年度)から5年間の方針と具体的取り組み」を示している。こうして具体的に謳わないと絵に描いた餅になるといったご意見もあったので、そのエッセンスを入れている。</p> <p>方針としては、熊本城の石垣復旧に必要な人材を増やしていくということにしており、石工、施工監理技術者、設計技術者といったところを対象としている。</p> <p>育成を目指す人材としては、20年後～30年後の世代交代・技術継承を見据えて、主たるターゲットは若手としている。そうしないと復旧が続いていけないということ。</p> <p>令和5年度から5年間の位置づけとしては、地元における若手専門技術者・技能者の知識の向上、実地経験の獲得を促しながら、石工志望者の裾野を広げることで、将来的な世代交代の実現に向けた土台を築く期間としている。</p> <p>ピンポイントで特定の人を育てても、必ずしも意図した職種に就いていただけないとは限らない。そのため、広く可能性のある人たちにアプローチをかけて、育ててきた人材にはさらに現場での経験の場を提供していく。そうした流れを作っていかなければいけないということ、こ</p>

	<p>ちらに書いている。</p> <p>その具体的な取り組みとしては、幅広い連携のもとで実施することとして、要するに若手人材の養成、石工志望者の育成、さらに若い世代の興味・関心の喚起と、下から積み上げていくようなイメージ。こうしたことを計画にも書き込んで、体系的にやっっていこうと考えているところ。</p>
坂本委員	<p>先ほどの資料の説明の中で、熊本市だけではなかなかできないという話があったが、この現場がある熊本市でしかできないことだと思っている。庁内体制の充実を図るとも書いてあるので、熊本市を挙げてこの問題に取り組んでいただければと思う。</p>
蓑茂委員長	<p>元々、当初の復旧基本計画においても、人材育成が重要だということは分かっている書いてあったが、この5年間やってみて、人材がいなくて進まなかった部分が現実としてあるので、緊急の5カ年計画として人材育成をしなければならないということが、このページでは言いたいことだと思う。ただ、お金の問題もあるし、仕組みの問題もあるし、いろいろなことがあると思うので、そこが伝わるように。</p> <p>今やっておかないとだめなんです。また同じことを繰り返すので。その意味では、今動き出していることは評価できる。自信をもってやってください。</p> <p>それから、熊本城での実践を水平展開しなければいけない。熊本は熊本地震の時に全国の皆さんにお世話になっているのだから。国や県からも復旧のお金が入っているが、そういったものをこれから全国にお返しする場が起きうるということを想定しながらやっていくことが、今後大事になってくると思う。</p>
原委員	<p>簡潔でとても分かりやすい資料だと思う。改訂版本編の資料編28ページに、「復旧状況における報道実績」が掲載されている。やはりメディアから情報発信していただくことで注目されていくし、財源確保に向けてもインパクトになるのではないかなと思う。</p> <p>どこに書くかは検討が必要だが、たとえば概要版の8ページ、第5章計画の実現に向けての中、(2)復旧過程の公開と活用に「庁内の関係部局はもとより国、県、民間事業者などとの連携をさらに強化し」とあるので、そこで情報発信のツールとなるメディアの協力を仰ぐということを強調されてもいいのかなと思った。</p>
事務局	<p>たしかに、メディアの情報発信の力は強く、我々もお世話になっているところ。今後も引き続き、このような情報発信を行っていきたいと考えている。</p>
蓑茂委員長	<p>熊本城は、関心をもっている人が非常に多様で、しかも期間が長くな</p>

	<p>るほど多様になっていく。ステークホルダーが増えるということ。そうしたいろいろな人に伝わるように考えていかないと、財政的支援は得られないし、名目もたたないので、そういったことを表現できたらいいなということかと思う。よろしくお願いします。</p>
<p>北野委員</p>	<p>復旧基本計画の改定について、非常によくまとめられて、あらゆるところに目が行き届いているような内容になっていると思った。先ほど説明のあった、本編の131ページに、「令和5年度から5年間の方針と具体的取り組み」と書かれていて、これを今後どう実施していくかが重要。この委員会は今回で終わるわけだが、ここに紐づく具体的なプログラムを、我々は見たいと思っている。それらがプログラムとしてどう実効性をもって、いわゆるアクションプラン、実施計画のようなものがどうなるんだということが、一番気になる。そこをぜひ具体化して欲しいという希望がある。</p> <p>今日も飯田丸五階櫓の石垣を行幸坂から眺めていたが、足場があって、ネットがあって、工事している様子は分かるのだが、観光客や子どもたちの目線から、ものすごく遠い印象を受ける。復旧過程を見せていく、見られるのは今の熊本城しかない、ということは皆さんご存じで、なんとなく工事しているのは分かるのだけれど、具体的に何をやっているのかは、まだまだ見えない。当然、特別見学通路がこれからその役割を果たして、見学通路から見える工事が始まればそうした心配もいらなくなるかもしれないけれど、既に天守も復旧し、飯田丸の石垣も立ち上がろうとしている。そういう場に、人々がもっと実感をもって入れるプログラムを作ってほしいと思う。当然、事業者の協力も得なければいけないが。</p> <p>先日行ったある自治体は、これは国の史跡の河川堤防で、中には全部栗石を詰めているのだけれど、市内の全小学生が来て、工事をやっている脇で、栗石に名前を書く。そして、自分が書いたものがどこに置かれるかというのが、後で教育委員会から個人にデータで送られる。自分の名前を書いた石が、どこで修復工事に役に立っているかが分かる。その現場で我々も石を積みせてもらって、市長、副市長、文化庁の調査官、皆さんのような事務職員まで、みんなが書いたものがどこにあるか分かる。たぶん熊本城でも、こうしたことは始められているかと思うし、復旧基本計画にも書くのだけれど、それとは別に、すぐにできることはいっぱいあると思う。そういうことを、計画如何に関わらず、積極的に進めて、市民の思い、自分たちの思いがかたちになっているということが、愛着に繋がっていくし、アピールにもなっていくと思うので、計画は</p>

	これでいいのだけれど、具体的な行動として、少しでも早くやっていただけたらいいと思う。
蓑茂委員長	ありがとうございました。ここに書かれていることから、体験を含めた「学び・考え」は分かるが、「行動する」がないと、やった気分にならないと思う。自分はよく「学び、考え、行動する」と言っているが、いまの話のような栗石をどうするのかといったことは、「行動する」に入らっしゃるのだと思う。少し考えてみてください。
事務局	ありがとうございます。いろいろなところに、「体験型」と書いていて、とくに工場の現場とか、いろいろな取り組み方があると思う。そういったことも今後考えながら、対応し、情報発信していきたいと思う。
山尾副委員長	先ほどもちょっと、主体がよく分からないという話が出たが、本編の135ページの中に、「国県等の関係機関一体となった復旧の推進」とあって、連携体制の図が、最初は違和感なかったのだけれど、市が中心になっていないとおかしいのではないかと。市が中心にあって、国、県、関係機関となって、さらに市の中に熊本城総合事務所が書かれていないとどこが中心で動いているのか見えないのではないかと。これだと誰が主体になるのか分からない気がしていて、やはり中心は熊本市、さらに熊本城総合事務所が中心になるということ、明確に発信してほしい。それだけ責任をもってしっかりやっていただいているので、そういうかたちで示していただければと思う。ご検討をよろしくお願いいたします。
事務局	たしかに、この計画自体が熊本市の計画であるので、見せ方を含めて考えたいと思う。
坂本委員	先ほど、財源の話題が出たと思うが、計画の実現に向けた課題がいろいろとあるにしても、最終的にはお金が続かないとやっていけないという問題があると思う。20年が35年になったことをもって、総事業費が634億円から1千億円になるといったことは一切書いていないし、財源の問題や総経費の話は出てきていないが、実際は今後ずっと財源の問題は出てくると思う。そのために、全国民の支援を得ながらやっているということで、どれだけ発信していけるかが重要になっていくと思う。 今日は熊本空港の新しいターミナルビルがオープンする。熊本は地震からの復興にあたって「ビルド・バック・ベター」というキャッチフレーズで、「創造的復興」として元の姿よりさらに良くしていこうということで進んでいるが、熊本城の復旧の基本は「元の姿に戻そう」ということ。それで、市民の方は、石垣を元の位置に戻すのは大変だなと、もうそろそ

	<p>ろ、元の状態そのままではなく作ってしまえばいいのでは、と言われ始めるかもしれない。そこを、文化財的な価値を残しながら、なおかつ、ただ元に戻すのではなく、耐震強度を高めたり、今まで以上によくなるように、誰もやったことがなかったことをやっているということをもっと全国に発信して行って、「これは残さなければいけない」ということと、「こういうことはどこでも起こりうることだ」ということを知ってもらって、だから人材育成もしているということを伝えなければいけない。</p> <p>先ほども蓑茂委員長がおっしゃったように、熊本は今後、全国にお返しするつもりでやっていくということを生懸命 PR しながら、財源は国や県から引き出すにしても、それは基本的に国民の支援次第という気持ちがないと続かないので、情報発信を続けていただければと思う。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。我々も、視察のご案内などをしていて感じるが、たとえば天守閣が復旧しましたというニュースが大々的に流れることで、外から来たお客様は「もうだいたい復旧は終わったと思っていた」とおっしゃる方もいらっしゃった。しかし、実際はそうではない。今まさに復旧過程にあるということ、そして、熊本城には価値があるから復旧するんだと、そういったことを合わせた情報発信の重要性を感じているところ。我々も、ご意見いただいたようなかたちで進めていきたいと考えているところ。</p>
蓑茂委員長	<p>今の坂本委員の前段の話に関して、概要版の3ページ、「石垣・建造物等の復旧方針」に「ただし、元々安全上の問題を有していたなどの場合は、「地震直前の状態」に復旧しないこともあります」とあるが、この部分は、「改良復旧」という言葉を使ってもいいと思った。「しないこともある」のではなくて、元々問題があった場合は、議論していただいて、真正性を損なわないように改良復旧をするんでしょう。そうすると、元に戻すだけじゃないということが伝わる。ちょっと検討してみてください。</p>
事務局	<p>はい。ありがとうございます。</p>
蓑茂委員長	<p>それから5ページの写真のキャプションの「二様の石垣」というのは、一般的に分かるのか。</p>
北野委員	<p>たしかにカギカッコを付けておいた方がいいかもしれない。通称「二様の石垣」ということで。</p>
蓑茂委員長	<p>それは全国にあるんですか。</p>
北野委員	<p>全国にはないです。熊本城の特徴ですね。</p>
蓑茂委員長	<p>たしかに特徴ですよ。</p>

事務局	我々も、視察の際には「こちらが二様の石垣です」という説明をしています。
蓑茂委員長	分かりました。他には何かありませんでしょうか。
北野委員	流行りの言葉であり使いたくはないのだが、実現可能性と持続可能性というのが、現代社会のいろいろな取り組みのキーワードになっている。今回の計画改定で期間が20年から35年になったというのは、クリティカルパスをもう一回見直して、実績に基づいて、実現可能な計画になったと。それから人材育成の問題とか、100年先を見据えたこれからの熊本城の整備とか、そういう長い目で、持続可能な整備の体制を作っていくと。この計画の根本はその2つだと思う。あまりそういう言葉は計画には書いてない。流行りの言葉だからあえて使わなかったのかもしれないけれど。これから説明するときも、あると便利な言葉だと思うが、いかがでしょうか。その言葉を使えということではないんだけど、そういうことなのかなと理解をした。
事務局	ありがとうございます。たしかに、そうした精神で書いている。持続可能性がある、継続できる、そうしたところで、いま何って、しっくりきた言葉です。
蓑茂委員長	「計画改定にあたって」というところで、ちょっと今のような言葉を入れるかどうかですね。基本的にはそういう気持ちで書かれているということなので。ありがとうございます。
原委員	お尋ねですが、復旧基本計画を作って、概要版を作るということで、これを広く配布というか、広報する必要があると思う。それで、どういう方々に、この概要版を配布する機会を捉えていくのか。それから、紙の概要版だけではなくて、インターネット等で情報発信をされると思うが、今後の展開の仕方について、お聞かせ願えれば。
事務局	ありがとうございます。この概要版と本編については、まずはホームページに掲載して、広く知っていただく。熊本城でこうした動きをしているということは、先ほども話が出たように、報道関係でも取り上げていただいているところ。それから明後日には、石原良純さんをお呼びして、復旧基本計画の啓発イベントを開催する。その中でも、短い時間にはなるが、復旧基本計画のエッセンス、こうしたことに取り組んでいるということ、熊本城の魅力とあわせて広く周知する。会場は700名程度で、インターネットでもライブ配信、アーカイブ配信を行う。こういったところで、熊本城の動きを伝えていく。それから紙の冊子も重要で、視察に来られた方に説明したり、地域の説明に使うなど、いろいろな活用方法を考えて、情報発信をしなければいけないと考えている。

事務局	<p>少しだけ補足として、策定時には、全国の主な城郭をもっていらっしやるところとか、主要な図書館に置いていただくとか、そういったところまでは冊子を配布したところ。今回も冊子の配布先についてはこれからまた考えて、ご意見を踏まえつつ活用していきたい。</p>
蓑茂委員長	<p>これだけのものを作るんだから、作ることが目的ではなくて、使っていて、みんなに知ってもらうこと。そうしたほうがいいと思いますので、ぜひ今のご意見を参考にしてください。</p> <p>概要版の7ページで気になるところがあるが、よろしいか。一番上の「(2)復旧過程の文化・観光資源等としての活用」のところの、「文化・観光資源等」というところ、ここはどういった意味か。「文化資源、観光資源」という意味で両方にかけているのか、「文化観光」、カルチャーツーリズムなのか。その下には「文化財・観光資源」というのもあるけれど、これはどちらかという、文化財資源と観光資源ということだと思うが、上はどうなのか。ちょっと気になったので、後で整理してください。</p> <p>今はカルチャーツーリズムというのが盛んで、先ほどの局長のご挨拶の中で、今年度の入園者数が100万人になるだろうという話があったが、カルチャーツーリズムが関係していると思う。既に熊本城ではなさっていると思うけれども、ただお城を見るだけではなくて、背景を知るとか、いろいろなことがあると思うので、ぜひ、そういった面も含めて、復旧基本計画を推進しているんだということが、どこかで見えたらいいなという印象です。</p>
三浦委員	<p>一つ前の話題に戻るけれども、資料をいろいろなところに配布したり、一般の方々に知っていただく機会を増やすということで、今まで置いていた図書館や資料を配布したところで、どのくらいの年代の、どのくらいの人数の方に見ていただいたかというリサーチをされた方がいいのかなと思う。自分自身も公募委員になって知ったが、「熊本城復旧基本計画」があることを知らない一般の方はたくさんいらっしやる。これまで約1年、多くの方に説明をしてきて、これだけ多くの方が関わってがんばってきている、これからもっとがんばり続ける人たちがいるということを口頭でお伝えはしてきたが、それでもご存じない方はたくさんいらっしやる。熊本城が好きで、興味をもっただけの方はたくさんいらっしやると思うが、もっとファンを増やすための努力を自分自身もしていかなければいけないと思う。計画について、どのくらいの方々に知っていただけているかというリサーチもされたいのかなと思っています。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。リサーチ手法にもいろいろあり、アンケートな</p>

	ども考えられる。知名度というか周知についても重要なファクターとなると思っている。
蓑茂委員長	検証委員会そのものが、モニタリングを中心としていて、いろいろな調査や資料の配布を行ったらモニタリングするということは常識になっているので、ぜひお願いします。
伊東委員	基本的なところはこれでいいと思うが、計画の前半を見ると、特別史跡であるとか重要文化財であるといった文化財的な価値が謳ってある。しかし後半にいくと、早期復旧ということが謳われていて、それで終わってしまうと「早期」ということが印象として残ってしまうように思う。最後に「まとめ」というものがないので余計にそうした印象があるのかもしれないが、復旧過程が、文化財的なものに対する調査・研究の過程であって、それが新しい価値を生み出すことにもつながるのだから、早期を目指しつつも、その過程の調査・研究をしっかりとやっていくんだということを謳っておいてほしいと思っている。
蓑茂委員長	「おわりに」をつけますか。
事務局	我々としても、文化財的価値を守ること、それから新たな発見、そういったことも重要だと考えている。バランスを取りながら進めることを目指すという表現を、検討させていただきたいと思う。
蓑茂委員長	はい。少しお時間をいただきたいということです。 他によろしいですか。それでは、いただいた時間がそろそろのようです。3回にわたって、検証委員会へのご参加ありがとうございました。おかげさまで、改定案ができて、そして一定の方向性ができたのではないかと思います。当初の予定では、5年に一度くらい、こうした検証をやりながら進めていこうというのが、この熊本城復旧基本計画でございますので、あと5年間、皆さんもがんばっていただいて、計画の内容に沿った進捗管理をやっていただけたらと思います。もちろん、社会の変化というのは、常に想定内にしておかなければいけませんので、そのことも睨みながら、チームとなってがんばっていただけたらと思います。 これで一応、私の役割は終わりにしたいと思います。委員の皆様方、どうもありがとうございました。

次第4	閉会
-----	----